

よじはんよじはん



ユン ソクチュン/ぶん
イ ヨンギョン/え
かみや にじ/やく
福音館書店
EW/3

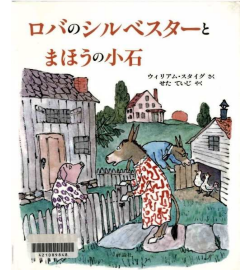
ていがくねんむ

低学年向け

ちいさなおんなのこがおかあさんにたのまれて、となりのおじさんのおみせに「いまなんじ？」とききにいきます。とけいのあるおうちがまだめずらしかった、いまよりすこしむかしのおはなしです。「よじはんだ」とおしえてもらったおんなのこがおうちへかえるまでのおはなしです。5がつ5かは「こどものひ」。ゆったりとしたこどものじかんがながれるかわいらしいおはなしです。

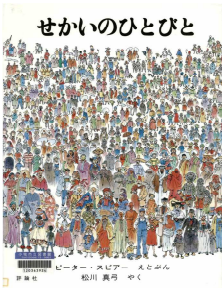
ロバのシルベスターとまほうの小石

ウィリアム・スタイグ/作・絵
せた ていじ/訳
評論社
EL/ロ



なんでものぞみのかなうまほうの小石をひろったシルベスターは、ひょんなことから「岩になりたい」とねがってしまい、岩にへんしんしてしまいます。ふたたび、きせきがおこらなければ、もとのすがたにもどることはできません。シルベスターのうんめいや、いかに。みのまわりのたいせつな人たちといっしょに読んで、かんそうを話し合ってもいいですね。

せかいのひとびと



ピーター・スピアー/えとぶん
松川 真弓/やく
評論社
EL/セ

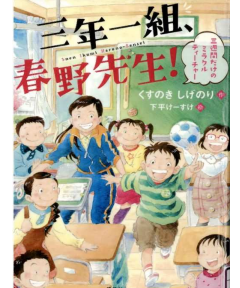
ちゅうがくねんむ

中学年向け

わたしたちが暮らすこの地球には、たくさんの人が住んでいますが、まったく同じ人間というのはい人もいませんね。肌の色、話す言葉、住む家や遊び、好きなもの苦手のもの…。みんなそれぞれ違って、だからこそ世界はおもしろい。世界にはいろいろな人がいていろいろな文化があるということをカラフルな絵で描いて、それぞれ違いがあることの素晴らしさを教えてくれる本です。

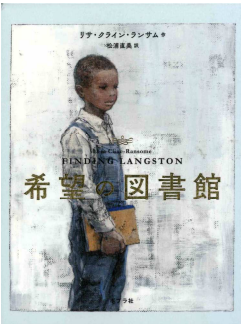
三年一組、春野先生！

くすのきしげのり/作
下平けいすけ/絵
講談社
913/ク



交通事故で入院した担任の滝野先生の代わりに来たのは、3月に大学を卒業したばかりで先生になるための勉強をしている春野先生だった。先生やお母さんに、いつもダメ出しばかりされてうんざりしていた「ぼく」に訪れた変化とは？ モヤモヤしたり、熱くなったり、等身大の「ぼく」の姿に共感できる読者も多いのではないのでしょうか。

希望の図書館



リサ・クライン・ランサム 作
松浦直美/訳
ポプラ社
933/クリ

こうがくねんむ

高学年向け

お母さんを病気でなくし、お父さんと一緒にシカゴへ引っ越してきたラングストン。学校ではのけ者にされ、忙しいお父さんともすれ違う日々…。そんなある日、ラングストンは偶然、〈図書館〉という場所に初めて足を踏み入れます。そこは、誰でも、無料で好きな本を借りられる場所。そこでたくさんの本に出会い、本を通じて新しい仲間もでき、ラングストンは人生に希望を見出していきます。

やかまし村の子どもたち

アストリッド・リンドグレン/作
大塚勇三/訳
岩波書店
949/リア



『長くつ下のピッピ』で有名なスウェーデンの作家リンドグレンの作品です。「やかまし村」には家がたった3軒、子どもが6人しかいません。でも、子どもたちにとって、そんなことは重要ではありません。ひみつの手紙をやりとりしたり、かくれ小屋を作ったり、子どもたちの毎日には楽しいこといっぱい！ 楽しい冒険に満ちた四季折々が、主人公リリーサの視点で生き生きと語られます。